

「福台友好交流の翼」 ～経済交流ミッション～



福島県商工会議所連合会



渡邊 博美

福島県商工会議所連合会 会長
福島商工会議所 会頭

「福台友好交流の翼～経済交流ミッション～」実施に際して

2011年3月11日。東北地方を襲った東日本大震災は、地震・津波による未曾有の被害をもたらし、多くの尊い命と人々の暮らしを奪い去りました。加えて、福島県は、原発事故による原子力災害という人類史上まれに見る多重の被害の中に置かれています。

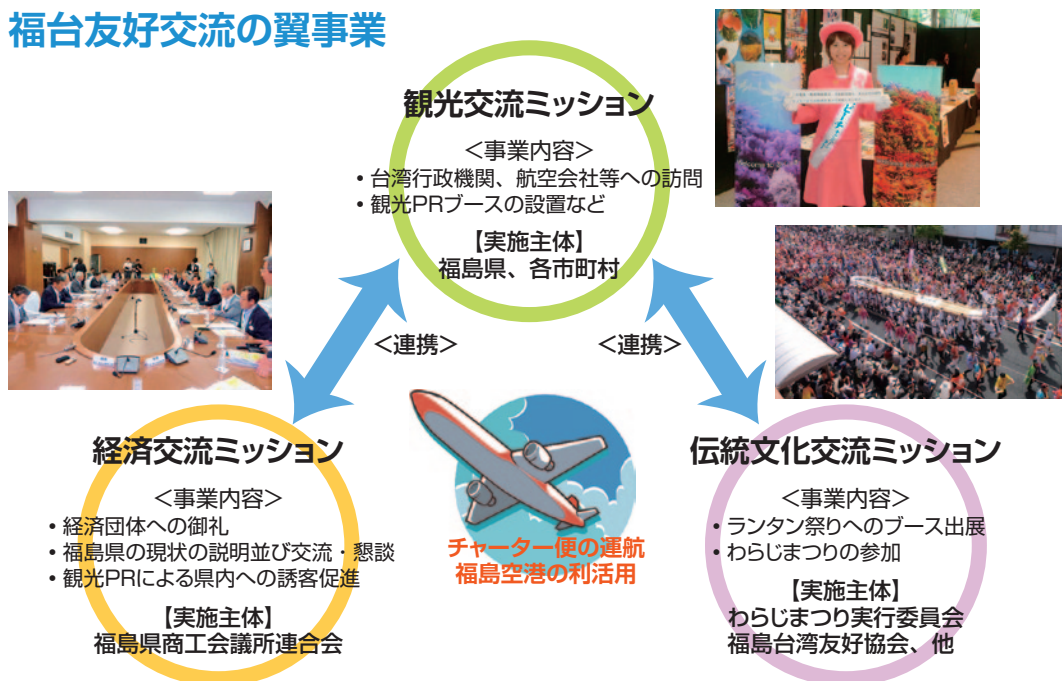
これまで福島県は、世界各地から心のこもった多くのご支援をいただきました。私たちは、大いに助けられ、励まされ、勇気をいただきました。改めて感謝を申し上げます。

震災・原発事故からまもなく3年を迎えるのを機に、福島県や民間団体と協力し、「福台友好交流の翼」を組織し、震災直後からいち早く対応し、物心両面において数々のご支援をいただいた台湾に訪問させていただくことと致しました。私たち福島県商工会議所連合会と致しましては、「経済交流ミッション」事業として、台湾の経済団体等に訪問し、直接、支援に対する心からの御礼を申し上げるとともに、福島県の現状へのご理解と引き続きのご支援をお願いするものであります。

福島県では、多くの住民が普段の生活を取り戻しつつありますが、長期化・複雑化する風評被害や乗り越えなければならない課題が依然として山積しているのもまた事実です。私たち福島県商工会議所連合会は、不屈の努力と活力こそが復興の原動力であることを肝に銘じ、福島県の再生のためにさらに前進してまいる所存であります。

今後とも、皆様の福島県に対する変わらぬご理解とご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げ、「福台友好交流の翼～経済交流ミッション～」実施に際してのご挨拶と致します。

福台友好交流の翼事業



1 商工会議所・福島県商工会議所連合会のご紹介

商工会議所は、「商工会議所法」に基づき、地区内における商工業の総合的な発展を図り、兼ねて社会一般の福祉増進に資することを目的として設立された、経済団体です。

～商工会議所の4つの大きな特徴～

- 1 地域性** 地域を基盤としている。
- 2 総合性** 会員はあらゆる業種、業態の商工業者から構成される。
- 3 公共性** 公益法人として組織や活動などの面で強い公共性を持っている。
- 4 国際性** 世界各国に商工会議所が組織されている。

日本国内に514の商工会議所があり、それぞれの地域で活動を行っており、国内の会員事業所数は127万を数えます。

私たち、「福島県商工会議所連合会」は、福島県内の10商工会議所によって組織された団体で、福島県内の商工業の総合的な改善発達と一般社会福祉の増進を図ることを目的として、要望活動をはじめ様々な活動を行っております。

商工会議所のシンボルマーク



商工会議所マークは、商工会議所の英語名 CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY の頭文字 CCI を図案化したものです。



企業と地域のニーズ・意見を取りまとめ、政策に反映されるよう国・県等へ要望活動を実施

福島県内の10商工会議所



2 福島県のご紹介

福島県の面積は、日本で3番目に広く、地域的・気候的・文化的な違いから「会津」「中通り」「浜通り」の3地方に大別されます。

福島県は、四季折々に表情を変える風光明媚な自然、NHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台になった歴史や伝統、様々な泉質が楽しめる温泉など、見どころとなる地域資源が満載の県です。



福島県の主要データ

(震災発生前のデータ)

主要項目	データ
面積	13,782km ²
人口	2,028,752人
世帯数	72.0万世帯
就業者数 ^{※1}	1,010,120人
第1次産業就業者割合	9.2%
第2次産業就業者割合	30.7%
第3次産業就業者割合	59.3%
事業所数	101,410

「一目でわかる福島県の指標（福島県企画調整部統計分析課 2011年3月）」から抜粋

※1 「平成17年国勢調査（総務省）」

福島県は、フルーツ王国。1年を通じて、様々な果物を堪能することができます。



様々な泉質が楽しめる温泉が県内各地に多数あります。



四季折々に表情を変える自然も福島県の魅力の1つです。

3 東日本大震災による福島県の被害

2011年3月11日14時46分に発生した「東日本大震災」は、M9.0を記録し、世界的に見ても1900年以降で4番目という未曾有の規模の大地震でした。多くの死傷者を出すとともに、あらゆる産業に大きな被害を及ぼしました。

福島県の被害状況

● 人的被害 (2013年12月16日現在)

死者：3,419人
行方不明者：5人



家屋被害の状況 (浪江町請戸地区)

● 住家被害 (2013年12月16日現在)

全壊：21,221棟
半壊：73,274棟

● 地震・津波による被害額 (2011年4月現在)

公共土木施設被害額 約 3,162 億円

※南相馬市の一部及び双葉郡8町村の被害額は含まれていない

農林水産関連被害額 約 2,753 億円

商工業関連被害額 約 3,597 億円

合計 約 9,512 億円

(引用：福島県発表資料)



家屋被害の状況 (福島市伏拝地区)



津波による被害の状況 (南相馬市原町地区)

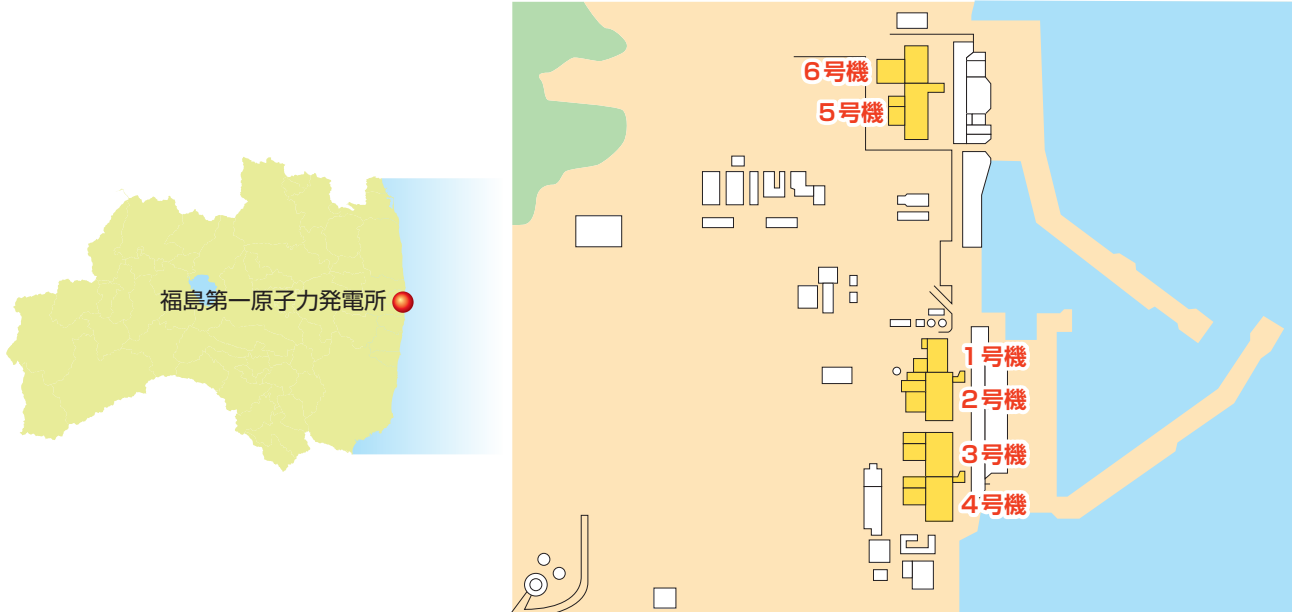
4 東京電力福島第一原発事故

原発事故からまもなく3年を迎えます。

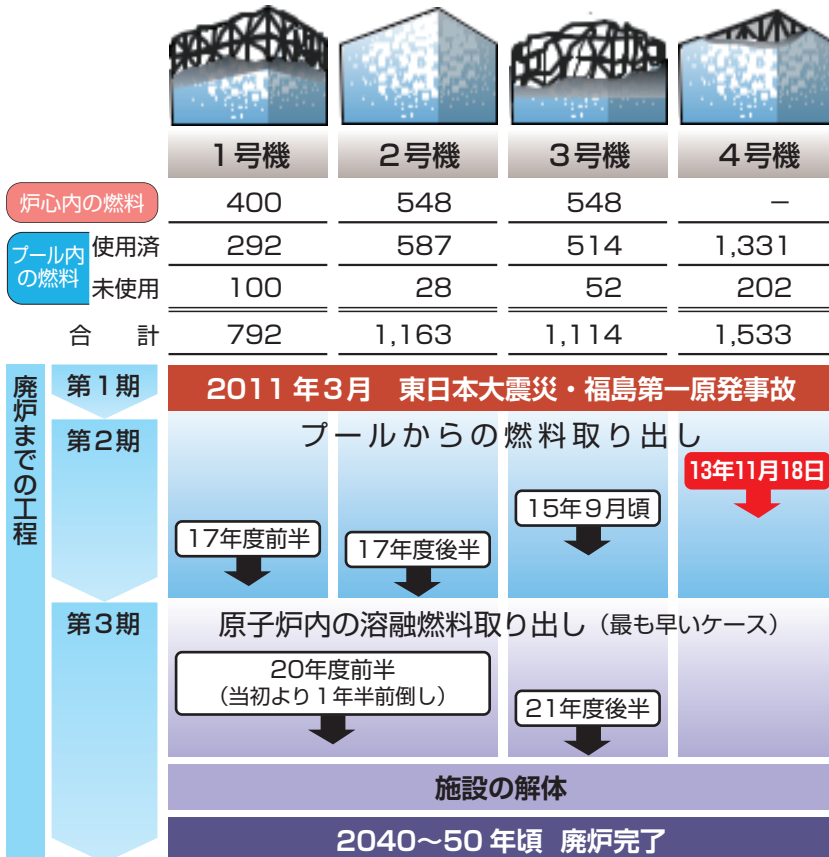
現在、原子炉は安定した状態を維持しており廃炉に向けた作業が進められています。

事故の完全な収束までには30～40年かかると言われています。

福島第一原子力発電所の配置図



福島第一原子力発電所の廃炉までの工程



4号機では、燃料の取り出し作業が開始

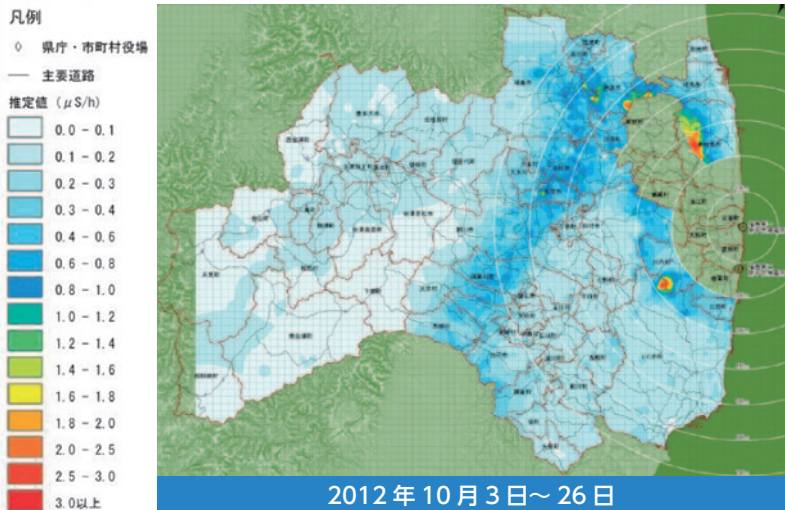
※5号機、6号機は、事故当時定期検査で停止中だったため、安定した状態を保たれている。

5 震災・原発事故からまもなく3年 ～空間放射線量の推移・除染活動の推進～

福島県内の空間放射線量は、2011年4月時点に比べて、着実に下がってきています。また、国、市町村が主体となり、放射性物質を取りのぞく除染活動を推進しています。除染を行うことで、より早く安心して生活できる環境づくりを目指しています。

福島県内の空間放射線量の推移

◆ 福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果に基づく福島県全域の空間線量率マップ



◆ 大気中の放射線量測定結果の推移

単位：μ Sv/h

	福島市	会津若松市	いわき市
震災前の平常値	0.04	0.04 ～0.05	0.05 ～0.06
2011年4月	2.74	0.24	0.66
9月	1.04	0.13	0.18
2012年3月	0.63	0.10	0.17
9月	0.69	0.10	0.10
2013年3月	0.46	0.07	0.09
11月	0.31	0.07	0.08

出典：福島県災害対策本部（暫定値）

◆ 国際放射線防護委員会（International Commission on Radiological Protection）放射線防護に関する勧告

1年間の被ばく限度となる放射線量

平常時 = 1ミリシーベルト未満
緊急時 = 20～100ミリシーベルト
緊急事故後の復旧時 = 1～20ミリシーベルト

◆ 空間線量率と追加被ばく線量との関係

$$\left(\begin{matrix} 0.23 \\ \text{空間線量率} \\ (\mu\text{Sv}/\text{時間}) \end{matrix} - \begin{matrix} 0.04 \\ \text{大地からの自然放射線量率} \\ (\mu\text{Sv}/\text{時間}) \end{matrix} \right) \times \begin{matrix} (8+16 \times 0.4) \\ \text{時間} \quad \text{時間} \quad \text{遮へいの効果} \end{matrix} \times 365 \text{日} \div 1,000 = \begin{matrix} 1 \\ \text{ミリシーベルト}/\text{年} \\ \text{追加被ばく線量} \\ (\text{mSv}/\text{年}) \end{matrix}$$

全国の平均的な値を採用
 1日のうち屋外に8時間、木造家屋内（遮へいにより放射線は40%になる）に16時間滞在と仮定
 1,000マイクロシーベルト(μSv) = 1ミリシーベルト(mSv)

出典：環境省「除染のお話し」

【参考】各国の自然放射線レベルに対する人口分布 日本国内の自然放射線量はヨーロッパ諸国に比較して低い

		総人口	1.5mSv未満	1.5 mSv ～3.0 mSv	3.0 mSv ～5.0 mSv	5.0 mSv ～7.0 mSv	7.0 mSv ～10 mSv	10 mSv以上
アジア	日本	1億2476万人	6021万人	6455万人	—	—	—	—
	中国(香港)	650万人	—	550万人	93万人	6万人	1万人	—
北ヨーロッパ	デンマーク	525万人	—	360万人	130万人	25万人	8万人	2万人
	フィンランド	514万人	22万人	341万人	100万人	24万人	15万人	12万人
西ヨーロッパ	ベルギー	1022万人	28万人	780万人	184万人	22万人	5万人	3万人
	オランダ	1558万人	1402万人	148万人	8万人	—	—	—
東ヨーロッパ	ハンガリー	1020万人	56万人	543万人	269万人	102万人	35万人	15万人
	ロシア	1億4810万人	8094万人	5203万人	971万人	271万人	147万人	124万人
南ヨーロッパ	イタリア	5728万人	15万人	4093万人	1200万人	320万人	80万人	20万人
	ポルトガル	943万人	365万人	407万人	156万人	15万人	—	—

出典：UNSCEAR 報告書(2000年)

6 震災・原発事故からまもなく3年 ～風評被害・風化問題～

福島県内全体の問題として、目に見えない放射性物質を過剰に恐れるあまり、風評被害が長期化・複雑化しており、あらゆる産業に深刻な影響を及ぼしています。さらに汚染水の流出問題などトラブルが起こるたびに県内産業は大きな影響を受けてしまいます。

また一方で、時間の経過とともに大震災・原発事故に対する国内外の関心が薄れる風化現象も同時に進行しつつあり、復旧・復興のスピードを遅らせてしまうことが懸念されております。

風評被害への対策強化、また放射能に関する正しい知識の啓発と普及が福島県の復興にとって重要な課題となっています。

農林水産業

- 出荷の自粛・制限
- 本格的な漁の自粛
- 入荷拒否・価格下落 など

観光業

- 観光客の減少
- 教育旅行の減少 など

製造業

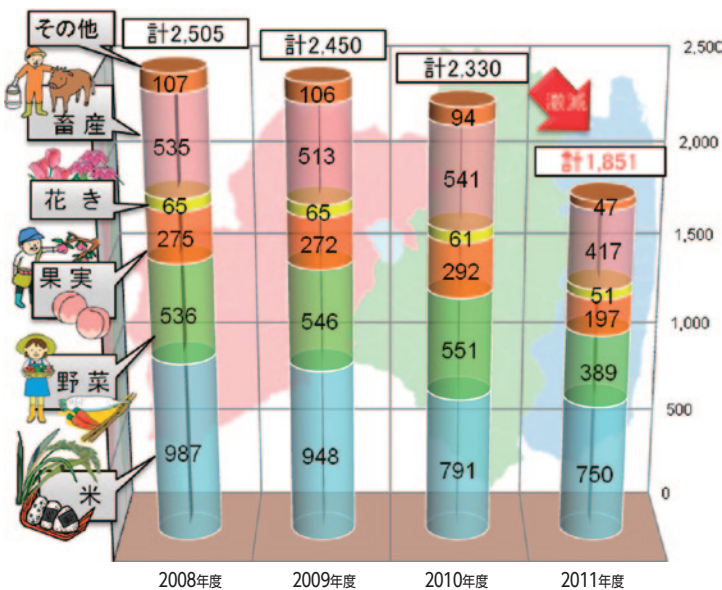
- 放射性測定の実施
- 納入拒否
- 工場の県外移転 など

その他

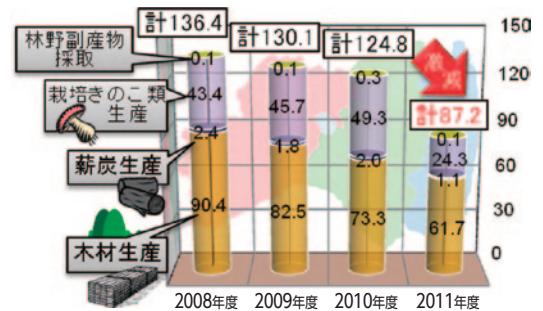
- 福島県人口の減少
- 避難生活の長期化・家族の分断
- 見えない放射性物質への不安
(精神的な負担の増加)
- 汚染された土壌・廃棄物等の処理問題 など

福島県の農業産出額等の推移 (単位: 億円)

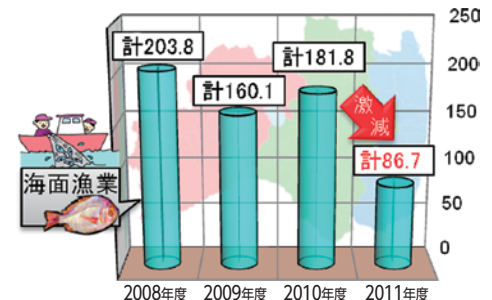
〈農業産出額〉



〈林業産出額〉



〈海面漁業生産額〉



出典：農林水産省 生産農業所得統計、生産林業所得統計報告書、海面漁業生産統計調査より作成

7 震災・原発事故からまもなく3年 ～検査体制の充実・強化～

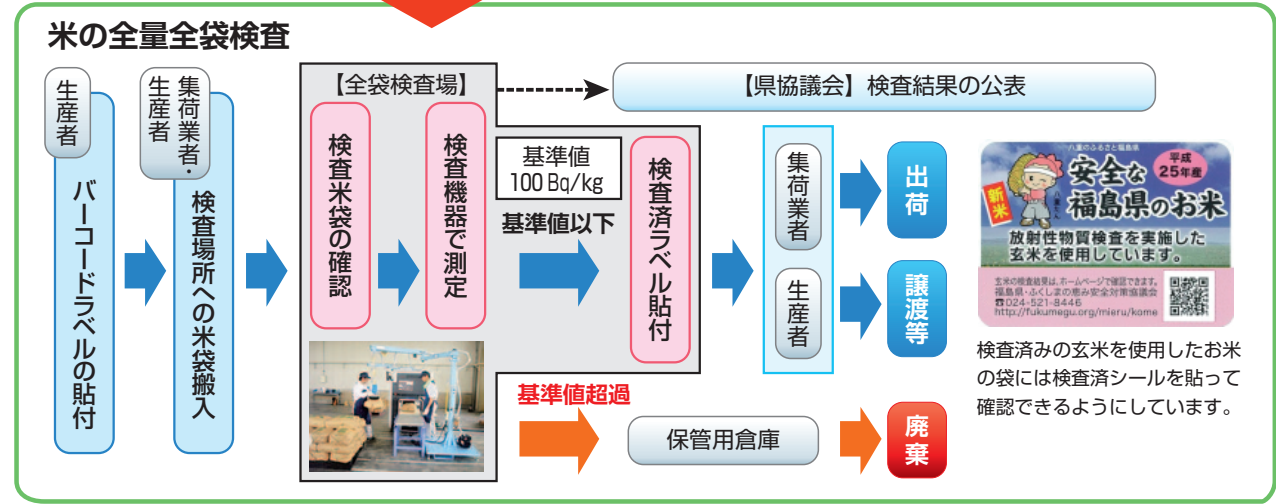
福島県では、基準値を超える放射性物質を含む食品を流通させないため、検査体制を強化しています。特に主食である米については、福島県内全域で全ての米袋を検査し、出荷・販売する米には検査済シールを貼付しています。

また、消費者の不安解消、信頼性の確保を目的に、県内全ての商工会議所においてゲルマニウム半導体検出器を導入し、加工食品を対象とした放射性物質測定事業を行っています。

福島県産農林水産物のモニタリング等状況

(平成25年4月～25年10月末)
※「玄米」は平成25年4月～11月20日

	玄米 平成25年度	野菜・果実	畜産物 (原乳・肉類・鶏卵)	山菜・きのこ (野生含む)	水産物
検査数	全量全袋検査 9,450,252	4,865	3,354	1,234	5,086
基準値超過数	13	0	0	79	175
基準値超過数の割合	0.0001%	0.00%	0.00%	6.40%	3.44%



【参考】放射性核種に係る日本、各国の指標値 単位：Bq/kg

	放射性セシウム 134Cs+137Cs				
	飲料水	牛乳・乳製品	野菜類	穀類	肉・卵・魚・その他
日本	10	50	100	100	100
中国	—	330	210	260	肉・魚・甲殻類 800 芋類 90
香港	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
台湾	370	370	370	370	370
シンガポール	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
タイ	500	500	500	500	500
韓国	370	370	370	370	370
フィリピン	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
ベトナム	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
マレーシア	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
アメリカ	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
EU*	200	200	500	500	500

※ EUについては、日本の食品にのみ適用する規制値を掲載

出典：消費者庁「食品と放射能」

8 震災・原発事故からまもなく3年 ～福島県の賑わいの再生に向けて～

福島県の賑わいの再生に向けて、県内各地で様々な催しを積極的に行っております。観光客数はまだまだ震災前の水準にまで回復していないのが現状ですが、福島県会津若松市を舞台とした、大河ドラマ「八重の桜」放送をきっかけに観光再生が着実に進んでおります。今後も、官民一体となって観光誘客に向けた取り組みを積極的に推進していきます。

■ 鶴ヶ城

天守閣への入場者数は 2008 年度の 95.3%まで回復。



■ 東北六魂祭

2013 年 6 月 1 日、2 日に開催。25万人の観光客が詰めかけました。



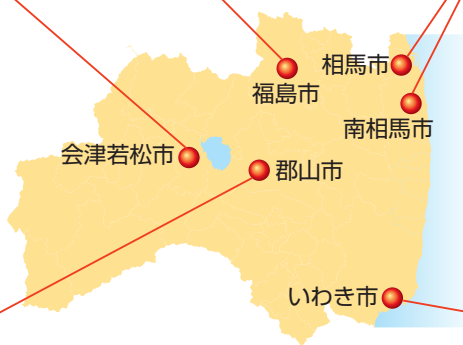
■ 相馬野馬追

震災に負けず開催され、大勢の観光客で賑わいました。



■ 原子力安全に関する福島閣僚会議

2012 年 12 月に開催。117 カ国と 13 の国際機関から、のべ 1700 名が参加。本県の復興へ向けた姿や魅力を発信。



■ アクアマリンふくしま

入館者数は震災前の 6～7 割に回復。

■ 2015 年度デスティネーションキャンペーンの開催決定



JRグループ 6 社と全国の旅行会社等の協力を得ながら重点的かつ集中的に全国で宣伝販売が展開される国内最大規模の観光キャンペーンが開催されます。

2013 年 NHK 大河ドラマ 「八重の桜」

京都にある名門・同志社大学を設立した、新島襄の妻、八重の生涯を描いた作品。八重は、福島県の会津出身で、作品の多くは会津が舞台となっています。八重は、日本の「ジャンヌダルク」、「ナイチンゲール」と称され、激動の時代を生き生きと駆け抜けました。



9 震災・原発事故からまもなく3年 ～研究開発・産業創出拠点の整備～

福島県の復興・再生には、単なる復旧にとどまらない先導的な取り組みが必要不可欠です。特に、再生可能エネルギー分野と医療関連分野における研究開発・産業創出拠点の整備を進めており、復興の推進力としていきます。

再生可能エネルギーの推進

再生可能エネルギー導入目標

年	再生可能エネルギー導入目標	県内エネルギー需要
現在	-	-
2020年	40%	-
2040年	100%	-

2040年(平成52年)頃には、県内エネルギー需要の100%相当量を再生可能エネルギーで生み出すことを目標に、再生エネルギーの拠点整備や導入拡大等を通じて、関連産業の集積・育成を図ります。

産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所

今年完成!

郡山市 提供：(独)産業技術総合研究所

独立行政法人産業技術総合研究所が、再生可能エネルギーの研究開発拠点を整備中。

場所 郡山市(郡山西部第二工業団地)

完成 2014年4月予定

<進捗状況等>
 構想 → 設計 → 着工 → 供用

2012.12: 建設工事に着手
 2014.4: 開所予定

浮体式洋上風力発電実証研究事業

運転開始!

広野・楢葉沖 提供：福島洋上風力コンソーシアム

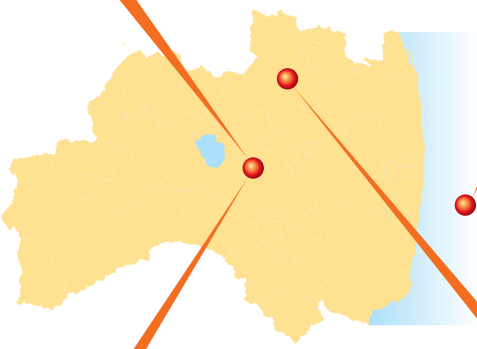
浮体式洋上風力発電システムの安全性、信頼性、経済性を検証。研究開発等の拠点を形成し、風力発電関連産業の集積を目指す。

場所 広野・楢葉沖

完成 2013年11月11日より運転開始

<進捗状況等>
【第一期】(2011～2013)
 構想 → 設計 → 着工 → 供用
 2013.7: 2,000kwの浮体式風車「ふくしま未来」(全高122m)と浮体式洋上変電設備「ふくしま絆」を設置
 2013.11: 運転開始

【第二期】(2014～2015)
 7,000kwの浮体式風車2基(全高約200m)の設置・運転を予定。



医療関連産業の推進

医療機器生産金額

年	生産金額(億円)	全国順位
2005	610	6位
2006	628	8位
2007	688	6位
2008	942	5位
2009	801	8位
2010	911	6位
2011	976	5位
2012	1089	4位

福島県は、震災前から全国有数の医療機器・部品の生産県ですが、さらなる一大拠点化を目指し、産業振興・雇用促進に繋げていきます。

2012年医療機器生産額	1089億円(全国4位)
2011年医療機器受託生産額	224億円(全国1位)
2011年医療用機械器具の部品等生産金額	124億円(全国1位)

福島県医療機器開発・安全性評価センター(仮称)

郡山市 医療機器操作トレーニングのイメージ

医療機器の開発から事業化までの一体的な支援を行うため、大動物を活用した安全性評価や医療従事者の機器操作トレーニング等を実施する拠点を整備。

場所 郡山市(旧農業試験場跡地)

完成 2016年早期の開所を目指す

<進捗状況等>
 構想 → 設計 → 着工 → 供用

2013～2014: 基本設計・実施設計
 2014～2015: 建設工事等
 2016: 早期の開所を目指す

ふくしま国際医療科学センター

福島市 イメージ

将来にわたり県民の健康を守るため、放射線医学に係る最先端の研究・診療拠点を整備。

<5つの機能>
 ①放射線医学県民健康管理センター
 ②先端臨床研究センター
 ③先端診療部門
 ④教育・人材育成部門
 ⑤医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター → 治療薬・診断薬の開発と産学官共同研究

場所 福島市(県立医科大学)

完成 2015年度末に一部供用開始予定

<進捗状況等>
 構想 → 設計 → 着工 → 供用

2013: 実施設計等
 2014～2015: 建設工事等
 2015: 年度末に一部供用開始を目指す



皆様に「3つのお願い」

福島県は、原発事故からまもなく3年を迎えようとしている今なお、長期化・複雑化する風評被害の影響など先行きの見えない状況が続いております。

私たち福島県商工会議所連合会は、この難局を乗り越え、新しい福島県の復興・発展のために自助努力を続けて参ります。

私たちの取り組みには、皆様のご理解とご協力が何より重要です。

そこで、皆様に、「3つのお願い」をさせていただきます。

お願い

1

是非、福島県にお越しく下さい

福島県は、四季折々に表情を変える風光明媚な自然、NHK大河ドラマ「八重の桜」の舞台になった歴史や伝統、様々な泉質が楽しめる温泉など、見どころとなる地域資源が満載の県です。

皆様には、是非、福島県にお越しいただき、本当の姿を「見て、触れて、体験して」ください。

お願い

2

福島県産品に対する正しい理解への普及・啓発にご協力ください

福島県では、厳しい基準のもと安全・安心な産品を製造・販売しています。福島県産品への正しい理解をいただくことが、風評被害の払拭につながります。皆様には、福島県産品に対する正しい理解への普及・啓発にご協力をお願い致します。

お願い

3

福島県における経済活動の可能性についてご検討ください

福島県では、復興の推進力とするため、再生可能エネルギー分野や医療関連分野等における研究開発拠点を整備し、関連産業の集積に力を入れています。皆様には、福島県の将来性をご理解いただき、経済活動の可能性についてご検討ください。

福島県商工会議所連合会

〒960-8053

福島県福島市三河南町1番20号

コラッセふくしま8階(福島商工会議所内)

TEL 024-536-5511 FAX 024-525-3566

制作協力:福島県

2014年(平成26年)1月発行